

市民の声を生かしたまちづくりを

鹿角市議会議長 宮野和秀



新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、夢と希望に満ちた爽やかな新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、平素より市議会に対し、厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、ユネスコ無形文化遺産に登録後、初の開催となった本市を代表する祭りである「花輪ばやし」が、市内外から注目を集め、また、土日開催と曜日に恵まれたこともあり、過去最高の平成12年に並ぶ、26万人の入り込みとなるなど、明るい話題となりました。

一方で、世界遺産登録を目指していた「北海道・北東北の縄文遺跡群」については、本市議会においても議員連盟を立ち上げるなど、ユネスコ推薦への後押しをいたしました。国内候補を選定する国の文化審議会からの推薦を得ることができず、残念ながら5年連続での見送りとなりました。今後、文化審議会から示された課題を解決し、世界遺産への登録を目指していくこととなりますが、市議会としても関係機関とともに強力に後押しをしてまいります。

さて、鹿角市では第6次総合計画の後期基本計画が進んでおり、さまざまな施策によって魅力あるまちづくりが進められるものと、大いに期待しているところであります。

市議会といたしまして、昨年は議員改選の年にあたり、定数を2名削減し、18名の新体制のもと、市民の皆さまの負託と公正で開かれた議会運営を目指し、議会報告会や議会だよりなどを通じて、「議会の見える化」に努めてまいりましたが、市議会は市政の監視役としての機能はもとより、市民の皆さまの声を市政に届け、積極的な政策提言を行うことが求められております。そのためにも今後とも日々研さんを重ねていく所存であります。

そして、鹿角市議会基本条例の目的である議会の活性化、市民福祉の向上、市民の皆さまが安全で安心して暮らせる活力のあるまちづくりの実現に向けて、議会の使命と責任の重大性を肝に銘じ、さらにまい進してまいります。

皆さまには、どうぞ今後とも変わらないご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆さまのご多幸と鹿角市のさらなる発展をお祈りしつつ、年頭のご挨拶といたします。

元気な鹿角を皆さまとともに

鹿角市長 兎玉 一



新年おめでとうございます。市民の皆さまには、希望に満ちた輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、地域資源の磨き上げと交流人口の拡大により、多くの賑わいが生まれた年でありました。ユネスコ無形文化遺産に登録されて初の開催となった「花輪ばやし」は、過去最多の26万人の来場者で賑わい、また、70回の節目を迎えた十和田八幡平駅伝やねりんピックアップ秋田マラソン交流大会では、全国から多くの参加者や関係者の方々に本市を訪れていただきました。

さらに、若手実力派俳優、山田孝之さんの初プロデュース映画に本市がロケ地として選ばれたことは、今後の鹿角の魅力や認知度を高める大きな起爆剤になるものと感じております。

そして、今年は新たな観光交流拠点施設「湯の駅おおゆ」のオープンを控えており、本市の強みである農業と観光、さらには商工業の連携をより一層推し進めていく年となります。2月に開催される全国中学校スキー大会は、本市の魅力を全国に発信できる絶好の機会でもあります。今後予定されている平成31年のインターハイや、その2年後の冬季国体とともに、市民の皆さまの協力を得ながら万全の態勢で臨んでま

いりたいと考えております。また、来る2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた動きの中では、ハンガリーのホストタウンとして登録が決定しており、姉妹都市であるシヨブロン市への中学生バスケットボールチームの派遣などを通じて、更なる交流人口の拡大を目指してまいります。

さて、今年（いぬみ）は「戊」は嗅覚が鋭く、道に迷わず進むと言われております。人口減少や過疎、高齢化が進むこれからの社会の中で、地域が持続する戦略を描き、実践していくことで、成年らしく本市の明るい未来を切り開いていく年にしてまいります。そのためにも、3年目を迎える第6次総合計画後期基本計画に掲げた重点プロジェクトを着実に推進し、「鹿角をより強く、より元気に」する施策を力強く展開してまいります。そして、人口構造の若返りを図り、活力に満ちた持続性のあるまち、住む人にとって心から豊かに感じられる地域社会の実現を、引き続き市民の皆さまとともに目指してまいりますので、市政への積極的な参画をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、健やかで、実り多い年でありますことを心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。